

## 令和3年度 学校評価アンケート結果について(考察)

### I 生徒アンケートより

アンケート回答率は、92.9% (昨年度 94.9%)。昨年度と同じ 19 の問いを設けた。そのうち 7 問で昨年度と比べて 3 ポイント以上評価が向上し、7 問で大きな変化は見られず、5 問で若干ではあるが評価が悪くなった。アンケート結果は、評価の向上と現状維持が 74%を占めている。また、令和元年度と比較した場合は、すべての問いで評価が向上している。

#### (評価が向上した項目)

- ⑦『自分は、自ら進んであいさつがよくできている』の「よくあてはまる」は(55%→42%)と下がったが、「ややあてはまる」が(28%→43%)と15ポイントも上昇し、「まったくあてはまらない」も1%まで減ってきた。今後も生徒会を核として継続して取り組んでいきたい。
- ⑧『自分は、清掃活動にまじめに取り組んでいる』の否定的評価が1桁となった。
- ⑩『自分は部活動に一生懸命取り組んでいる』では「よくあてはまる」が(58%→65%)と大きく上昇し、肯定的評価の合計も(81%→86%)と向上した。昨年度中止となった総体が無観客ではあったが、開催できたこと、各種競技会や演奏会も実施できたものが多かったので、生徒に充実感をもたらせたのではないかと考える。
- ⑫『自分は、周囲の人への「感謝」の気持ちを常にもっている』の「よくあてはまる」で(54%→62%)と8ポイント向上し、肯定的評価の合計も(84%→88%)と向上している。教育目標に掲げている内容であり、生徒にも浸透しつつあることがうかがえ、大変嬉しい傾向である。
- ⑭『先生は、分かりやすい授業をしてくれる』の「よくあてはまる」が(41%→50%→52%)、肯定的評価の合計が(81%→84%→87%)とここ3年間、年を追って向上してきている。先生方の努力に感謝したい。
- ⑯『先生は、いじめなどのない楽しい学級づくりや仲間づくりに努めていると思う』の「よくあてはまる」が(57%→66%)と9ポイント、肯定的評価の合計が(82%→87%)と5ポイント向上した。この評価は私たちの取組に力をくれる評価である。今後も継続して取り組んでいきたい。
- ⑰『学校は、地震・津波・不審者など、危機に対する指導ができていると思う』の「よくあてはまる」が(54%→60%)、否定的評価の合計が(7%→4%)となり、改善傾向にあるものの、命に直結する教育活動であるため、肯定的評価が100%でなければならないと認識している。毎年同じような訓練等の繰り返す傾向にあるので、来年度はより実践的な取組を企画しなければならない。

上記以外にも①『自分は、学校生活を楽しんでいる』の「よくあてはまる」の肯定的評価の合計が90%を、②『自分は、学習や生活で目標を持って学校生活を送っている』の肯定的評価の合計が80%を超えている。学校として本当に嬉しい評価であり、その継続ができています。本校の強みをさらに伸ばせるよう、次年度も取り組んでいきたい。また、⑭⑯の問いでは、「わからない」と回答した生徒の割合が減っている。このことは昨年度のアンケート結果の反省が生かされた結果であり、大きな成果であると捉えたい。

#### (評価が悪くなった項目)

- ③『自分は、授業が楽しく、内容がよくわかる』の「よくあてはまる」が(32%→38%)6ポイントも向上している一方で「あまりあてはまらない」(12%→15%)が3ポイント悪化した。肯定的評価の合計に大きな変化は見られないが、否定的評価の合計が3ポイント悪くなっている。この3ポイントは実数にすると4人程度だが、学習に対する意欲や充足感において二極化の傾向が見え始めている。基礎学力の定着が十分でない生徒への指導方法等について対策を講じる必要がある。
- ④『自分は、本をよく読んでいる』の「よくあてはまる」(32%→25%)が7ポイント、「あまりあてはまらない」(23%→31%)が8ポイント悪くなった。朝の学習の様子を見ると、一生懸命本を読んでいる生徒が多いが、SNS やネットを利用する時間が増えていることが影響しているのではないかと推測している。
- ⑬『自分は、地域や社会の役に立つために何をすべきか考えることがある』では、肯定的回答の合計と否定的回答の合計では大きな変化は見られないが、「よくあてはまる」(36%→26%)が10ポイント「あまりあてはまらない」が(14%→22%)8ポイント悪くなっている。教育目標に掲げている『貢献』に関わる設問であるので残念な結果であった。生徒の勤労意欲を高め、意義を知らせるために現在進めている「キャリア教育」の充実を継続・発展させていきたい。
- ⑮『先生は、自分の悩みなどの相談に適切に応じていると思う』では「よくあてはまる」の評価が(59%→52%)と7ポイント下がった。昨年度は大幅(17ポイント)向上した項目であるので、この結果を肝に銘じて、生徒に寄り添う対応のさらなる充実を目ざしたい。

- ⑧ 『学校はいのちの大切さを考える学習や人権学習に力を入れていると思う』では「よくあてはまる」の評価が(66%→61%)と5ポイント下がり、肯定的評価の合計も(94%→89%)と5ポイント下がっている。年間を通じて取り組み、9割が肯定的評価ではあるが、教育の根幹を成す教育活動なので、肯定的評価100%を目指して取り組んでいかなければならない。

## 2 保護者アンケートより

アンケート回答率は、94.9%（昨年度 87.9%）で、昨年度と同じ 19 の問いを設けた。その約 8 割にあたる 15 の設問で昨年度と比べて評価の向上が見られた。さらに、そのうちの 7 つの設問では 10 ポイント前後も評価が良くなっている。評価が下がったのは約 1 割にあたる 2 つの設問のみであった。また、生徒のアンケート同様に、令和元年度と比較した場合は、すべての設問で評価は向上している。コロナ禍が丸 2 年継続して、今年度も様々な制限や課題が課せられた 1 年であったにも関わらず、多くの保護者から本校の教育に対する理解ならびに支援・協力をいただいていることがこの回答に表れている。心から感謝したい。

### （評価が著しく向上した項目）

- ③ 『お子さんは、学校の様子について、よく話をする』の肯定的評価の合計が(61%→71%)、否定的評価の合計が(37%→29%)となり、これまで生徒と保護者の回答にあったギャップ(10ポイント以上生徒の評価が高くなっていた)が解消され、生徒と保護者の意識が重なるようになった。
- ⑦ 『お子さんは、あいさつがよくできている』の肯定的評価の合計が(72%→81%)、否定的評価の合計が(22%→14%)となっている。本校の長所のひとつである「あいさつができる学校」が保護者にも理解してもらうことができおり、今後もさらに継続していきたい。
- ⑨ 『お子さんは、周囲の人への「感謝」の気持ちを言葉や行動などで表現している』の「よくあてはまる」(24%→35%)、肯定的評価の合計が(70%→76%)と向上し、「あまりあてはまらない」と否定的評価の合計がそれぞれ7ポイント減少した。教育目標に掲げている内容に該当する設問であるので、今後もさらなる改善に取り組んでいきたい。
- ⑩ 『お子さんは、部活動に一生懸命取り組んでいる』の「よくあてはまる」(41%→57%)及び肯定的評価の合計が(71%→84%)と大幅に向上し、「あまりあてはまらない」(20%→5%)、と否定的評価の合計(24%→10%)が大幅に減少した。コロナ禍であり無観客開催が多かったが、昨年中止された総体や各種競技会、演奏会も概ね開催され、生徒の競う場が確保されたことがプラス評価の大きな要因になったと考えられる。
- ⑫ 『教師は、授業改善や教材の工夫を行い、分かりやすい授業に努めていると思う』の肯定的評価の合計が(60%→69%)、「まったくあてはまらない」が(4%→1%)となった。GIGA スクール構想もその要因の一つであると思うが、まだ準備的な段階の域を出ていないので、来年度も着実にステップアップしていきたい。この設問は学校としての根幹を成す項目なので、否定的評価の合計は0%を目指してさらに取り組んでいきたい。
- ⑬ 『教師は、生徒の悩みなどの相談に適切に応じていると思う』の肯定的評価の合計は(62%→70%)、否定的評価の合計は(15%→9%)と改善した。2年前と比べるとそれぞれ20%の改善となっている。学習指導とならんで我々にとって核となる指導である。この良き評価を力として今後ともしっかり取り組んでいきたい。
- ⑭ 『学校行事は、生徒にとって、楽しくて、充実したものとなっていると思う』の「よくあてはまる」が(31%→43%)、肯定的評価の合計(71%→82%)で否定的評価の合計も(15%→9%)と改善された。コロナ禍であっても、縮小したり形態を変えてでも、できる限り中止は避けて開催してきたことがこの評価につながったのではないかと考えている。

### （評価が向上した項目）

- ① 『お子さんは、学校生活を楽しんでいる』の肯定的評価の合計が(83%→88%)この設問も年々、生徒と保護者の回答のギャップが縮小してきている。肯定的評価の合計が9割に近づいていることは、本当にありがたい評価であった。
- ② 『お子さんは、目標を持って学校生活を送っている』の「よくあてはまる」が(23%→33%)、肯定的評価の合計が(64%→68%)
- ④ 『お子さんは、授業の内容がよく分かるようである』の肯定的評価の合計が(60%→65%)、否定的評価の合計が(31%→27%)
- ⑭ 『教師は、いじめなどのない楽しい学級づくりや仲間づくりに努めていると思う』の否定的評価の合計(11%→5%)であった。問い⑬と合わせて、学校生活の根幹をなす項目なので、否定的評価0%を目指して今後も取り組んでいきたい。
- ⑮ 『学校は、家庭への連絡や情報提供を積極的に行っていると思う』の「よくあてはまる」(36%→39%)、肯定的評価の合計(81%→86%)である。学校HPへの一日のアクセス数もこの2年で3倍近くになった。今後とも情報発信に努めたい。

- ⑬『学校は、校内の環境美化や施設・設備に積極的に取り組んでいると思う』の否定的評価の合計が(10%→3%)
- ⑭『学校はいのちの大切さを考える学習や人権学習に力を入れていると思う』では、「まったくあてはまらない」が(5%→0%)に、否定的評価の合計も(9%→5%)に減少した。⑬の設問と同様に否定的評価0%を目ざして今後も取り組んでいきたい。
- ⑮『学校は、地震・津波・不審者など、危機に対する指導ができていていると思う』の「よくあてはまる」が(24%→30%)、肯定的評価の合計が(67%→73%)と増え、「まったくあてはまらない」が0%となった。昨年と比較すると改善されているが、命に直結する教育活動の肯定的評価が7割は、評価が低いと捉えている。生徒のアンケート考察でも述べたが、来年度はより実践的な取組をしなければならない。

#### (評価が悪くなった項目)

- ⑤『お子さんは、読書に親しんでいる』の「よくあてはまる」が(23%→16%)と7ポイント、肯定的評価の合計が(56%→53%)、「あまりあてはまらない」が(29%→34%)であった。生徒のアンケート結果でも述べたが、SNS やネットを利用する時間が増えていることが影響しているのではないかと推測している。
- ⑧『お子さんは、健康な生活づくりに努めている』の「よくあてはまる」が(33%→29%)、「あまりあてはまらない」が(19%→23%)となった。人数にすると5,6人程度の悪化であるが、上述した⑤の要因と共通する SNS やネットを利用する時間が増え、睡眠不足等に不安を感じているのではないかと推測される。

総じて、各設問に対する保護者の方々の理解ある回答を重ねて感謝するとともに、この結果を力にして、さらなる取組を続けていかなければならない。数値的に改善傾向にあるとはいえ、まだまだ改善すべきところはたくさんある。あくまで目標は全項目の否定的評価0%である。教職員一丸となって取り組んでいきたい。

設問⑬⑭⑮⑯⑰については、「わからない」との回答が20%台となっている。実数にすると30名程度である。コロナ禍で難しい面もあるが、できる限り本校の取組の紹介及び広報に努め、理解と支援を広げていかなければならない。

また、全体としては改善傾向にあっても、アンケートの記述の欄には、厳しいご指摘もいただいている。謙虚に受け止め、反省し、誠意を持って丁寧に教育活動にあたっていくことを肝に銘じて取り組む必要がある。

ここで一つ、保護者の方々にお願いしたいことがある。本校の課題の一つとしてネットや SNS の弊害があげられる。学校で発覚する友人関係のトラブルが SNS 等のに起因することが大半になってきているのも事実である。学校でも人権講演会や出前授業、「SNS 等マナーアッププロジェクト」等を展開し、今後も指導を継続していくが、ご家庭においてもスマホ等の管理や使用について、さらなるご理解と協力をお願いしたい。

### 3 教職員アンケートより

すべての教職員から回答を得ている。総じて、回答から大きな変化は見受けられない。今年度の否定的評価0%の設問は⑧⑨⑪⑫⑬⑮の6つあり、それらの項目は、生徒や保護者の評価改善に結果としてつながっている。私たちが取り組んだことが生徒の成長に結びつくことを改めてこのアンケートが証明している。また他の設問における生徒や保護者のアンケート結果の改善傾向を自信とし、「自覚」と「誇り」をもって、これからも教育活動に取り組んでいきたい。

また、昨年と同じことを述べるが、設問8～設問19については、私たち教職員や学校の取組の評価であるため、否定的評価は0%に、肯定的評価の「よくあてはまる」の割合は1%でも増やしていくように今後とも取り組んでいかなければならない。加えて、コロナ禍にあっても、様々な工夫を講じることで生徒の体験や体感を守ることが、大きな意味をもつこともこのアンケート結果が明らかにしている。厳しい状況は今後も継続することが予想されるが、全員でアイデアを出し合い、生徒の体験を少しでも守り、積み重ねていく必要がある。

繰り返しになるが、生徒及び保護者のアンケート結果が改善傾向にはあっても、より改善する点はたくさんあり、厳しい指摘もいただいている。このことを謙虚に受け止め、反省し、今後も校訓『至誠』にあるよう、誠意を持って丁寧に教育活動にあたっていくことを肝に銘じて取り組まなければならない。